



5月12日(火)

## キリストの内に住む

聖書朗読 コロサイ 2:1~7

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。ピリピ 4:4~6

マイクは友達に「キリストの内に住む？ 良さそうだから、たまに一週間試してみるのだよね。一週間なら出来るけど、それ以上は無理！ 君はどうやってそれを実行しているの？ 何か秘訣があるの？」と打ち明けました。

マイクの考えに対して、彼の友達は言葉を慎重に選び「マイク、あなたのこと大好きさ。でも正直に言うなら、あなたが本当の幸せはイエス様の内にあることに気がついて欲しいと思うよ」と答えました。

マイクの友達が持っている秘訣はキリストの内にあったのです。神の御子に対するメッセージは『あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです』（コロサイ 1:27）。マイクはキリストの内に住むことにこだわり過ぎて、御力に導かれることを忘れてしまったのです。

キリストの力なしでは私たちは無力なのです。その事実を自覚し、キリストに内に入って頂きましょう。そして共に「完全な信念」を切望しましょう。そうすれば、キリストが内に居て下さることに感謝があふれるでしょう。

讃美歌 333

祈り 父よ。キリストに内在して頂くという豊かな人生のための秘訣を、私がおもつと知ることが出来ますように。御子への感謝の気持ちを持てるよう導いて下さい。

ひとり子であるイエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェーンアン・トーマス 1974年

5月13日(水)

## 不注意

聖書朗読 コロサイ 3:1~4

あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

コロサイ 3:2

「もう嫌だ!!!」。やる気を失った、疲れた、ガッカリさせられた、もうお手上げ。これらの雰囲気の説明する言葉には共通点があります。それは、今まで頑張ってきたことが自分自身に満足感を与えていないことに気付き、その頑張ってきたことをもう続けることが出来ない、という思いです。

だれでも習慣になったものには、熱意を失いやすいのです。感情的な、もしくは物理的な疲労は私たちの強さを無くします。挫折や敵の存在により、失望することもあるでしょう。私たちは皆、自分で進もうと考えた道を進みたいと思うものであり、その道が他者により阻まれることは許し難いと思ってしまうからです。

しかし、「以前持っていたようなやる気はもう失ってしまった」と言う態度は、私たちが向かう究極的なゴールについて忘れてしまっていると言えないでしょうか。そのゴールとは、私たちが遭遇する様々な問題を乗り越えて求めて行く価値があるゴールのことであり、私たちのために神が備えてくださっているゴールです。

私たちの目指すゴールが地上的なものである限り、「これだ!」と新たにゴールを考えてみたとしても、遅かれ早かれそのゴールをいずれむなしく感じる時が来ます。私たちが失望感や倦怠感で包まれてしまう時、もしかすると私たちは「地上のもの」で心が一杯になってはいないでしょうか。私たちは、「天にあるもの」を思いつつ歩んで参りましょう。

讃美歌 第二編 195

祈り 父よ。私たち自身ではなくイエス様に心を向けられるよう助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ウィリアム・ヤング 1983年



5月16日(土)

## 神が喜ばれる信仰心

聖書朗読 ヘブル 11:1~7

まことに、神なる主は太陽です。盾です。主は恵みと栄光を授け、正しく歩む者たちに、良いものを拒まれません。 詩篇 84:11

時にサタンに惑わされ『信じます。不信仰な私をお助けください。』(マルコ 9:24)と感じるときがあります。『ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまであなたがたといっしょにいなければならぬのでしょうか。』(マタイ 17:17)とイエスは言われています。

人生の中で、困惑したり、ガッカリしたりすることも多々あります。しかし、そんな時こそ『信じます。不信仰な私をお助けください。』と一日中祈るべきではないでしょうか。そんな時こそ、聖書に書かれている御言葉を読みましょう。

恐れた時:『わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』(マタイ 28:20)

困窮している時:『神の国と神の義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。』(マタイ 6:33)

苦しい時:『この身とこの心は尽き果てましょう。しかし神はとこしえに私の心の岩、私の分の土地です。』(詩篇 73:26)

心配な時:『何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによってあなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。』(ピリピ 4:6)

トラブルの時:『私は苦難の日にあなたを呼び求めます。あなたが答えてくださるからです。』(詩篇 86:7)

難しい状況にある時こそ、御言葉を信じましょう。

讃美歌 500

祈り 神よ。あなたを信じます。信仰心のない私をお助け下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

バージニア・ファイン 1957年

5月17日(日)

## 死の本当の意味

聖書朗読 ヘブル 11:8~22

また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあつて死ぬ死者は幸いである。』御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

黙示録 14:13

死は誰もがいずれは経験することです。命ある者はいずれ死ぬことを人は学びます。死を受け入れることは難しいことです。そして、神の目的を理解することも難しいことです。それが意味あることであることを理解したいものです。

聖書の中で、神はまずエデンの園で男を永遠に生きられるよう計画されました。ここでは、創造主である神と、被造物である男の関係は近かったでしょう。しかし、男が罪を犯したことにより、物理的な距離感が出来ただけでなく、環境も変わったのです。『罪から来る報酬は死です。』(ローマ 6:23)。死はクリスチャンにとって、神と共に永遠に居るために必要なものとなったのです。主にあつて死ぬ人々は、最初の祖先アダとイブと同じように恩恵を受ける経験が出来るのです。

もし、死が永遠に神と生きるために必要なことならば、それは恐れることではなく、素敵なことなのではないでしょうか。死の後には何が待っているのでしょうか。考えてみて下さい。決して悪いことではないはずです。

讃美歌 488

祈り 癒し、慰めを与えて下さる神よ。死の本当の意味を理解出来るようお助け下さい。あなたに目を向けられるようお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジェームス・カルブ 1967年